

風流踊りの音楽学的研究

——土山町の太鼓踊り I (踊りの構成)——

梁 島 章 子

A Musicological Study of the *Furyū-odori* —— *Taiko-odori* in Tsuchiyama-cho I (Structure) ——

Takako YANASHIMA

Received September 30, 1988

抄録：本研究は、風流踊り歌の音楽学的研究のための第一段階として、滋賀県土山町の4地区に伝承されている太鼓踊りの踊りの構成について考察することを目的とした。その結果、土山町の太鼓踊りでは、各踊りの場で踊られる踊りのための「一連の踊り歌」の構成は、それぞれの部分の持つ機能によって、6つに分けられることがわかった。すなわち、それぞれの部分は、①移動の機能、②踊りの場への入場の機能、③踊りの場をほめ、きよめる機能、④中心となる踊りを呼び出す機能、⑤踊る機能、⑥踊りを終止する機能、を持っているのである。踊りの構成を、こうした機能によって考えることは、今後の、踊り歌の、音楽的構成や音楽的要素を検討するための土台となるものである。

索引語：太鼓踊り、踊り、風流踊り歌、民俗音楽、構成と機能

Abstract : This is a musicological study of the *Furyū-odori-uta* which is sung with folk-dances at festivals. I focussed on the structure of the *Taiko-odori*-dances practiced in four districts in Tsuchiyama-chō. During the *Taiko-odori*, men dance with a drum on their breasts.

The *Taiko-odori* in *Tsuchiyama-chō* consists of a series of several kinds of dances. The structure of the series can be classified into six groups with regard to function: ① changing the place where they dance ② movement towards the dancing area ③ praising and purifying the dancing area ④ introduction of the main dances ⑤ the dances themselves and ⑥ finishing the dances.

Next time I would like to study the musical structure and musical factors of the *Taiko-odori-uta* according with these six groups.

KeyWords : *Taiko-odori*, dance, *Furyū-odori-uta*, folk music, structure and function.

は じ め に

太鼓踊りは、一般に風流踊りといわれているものの1つである。この風流踊りは室町時代後期の頃から、奈良や京都を中心にして盂蘭盆会や村祭り、また雨ごい祈願などに踊られるようになり、その後、全国的に広まったといわれている。なかでも、太鼓踊りは西日本で特に流行し、現在でも花笠踊り・小踊り・雨ごい踊りなどの呼び名で各地で演じられている。

太鼓踊りをはじめとして、風流踊りの研究については、「民俗芸能としての“風流踊り”が現在に生きた芸能であるかぎり、歌謡・囃子・踊様式など多面的な要素で構成される。それゆえ、その素材の資料化は必然的に舞踊・音楽・文学・歴史などさまざまな視点から行われる必要がある¹⁾」といわれるように、総合的な観点からの研究の必要性が叫ばれてきたが、これまでの研究では、芸能史や踊り歌の詞章からの研究がそのほとんどを占め、音楽や舞踊からの研究はまことにわずかである。

本研究は、滋賀県甲賀郡土山町の4つの地区に伝承されている太鼓踊りの全体に注目して、土山町4地区というひとまとまりの中で伝承されてきた芸能の姿および太鼓踊りという同種の芸能の姿の中での、風流踊り歌の音楽的側面からの検討を行うための初めの段階として、土山町の太鼓踊りの踊り全体の構成について考察することを目的とする。なお、本研究のための資料は、次の2冊の報告書と報告書のための調査の録音・VTRテープによっている。²⁾

土山町教育委員会編「土山の太鼓踊り」1987

土山町教育委員会編「青土の太鼓踊り」1988

1. 土山町の太鼓踊り

1. 土山町の太鼓踊り

西日本を中心に分布する太鼓踊りは、踊り方グループと囃子方グループ、それに地区によっては「側踊り（ガワ）」グループが加わって踊られるが、踊り方（側踊りに対して中踊りとも呼ばれる）の中心である、胸に太鼓をつけた太鼓打ち（編成は2人から数人の場合が多い）が、囃子方の歌に合わせて踊るものが多い。³⁾各地の太鼓踊りは、少ないところでも数曲、多いところでは20曲以上のレパートリーを持って踊られてきたが、最近はそのレパートリーの全曲を踊るところは少なくなっている。

土山町では現在、山女原・黒川・黒滝・青土の4地区で太鼓踊りが奉納されている。山女原では、この踊りを「花笠踊り」と呼んでいる（黒川でもこのように呼ぶこともある）が、以下、これらを「土山町の太鼓踊り」と呼ぶことにする。

太鼓踊りはその踊りの構成の仕方や音楽、また伝承地などによって、いくつかの系統に分けて考えられており、土山4地区の太鼓踊りも後から詳しく述べるように、それぞれに共通点と相違点を持っているが、「大（小）順役踊り・大（小）神学踊り」などと呼ばれる特徴ある曲をそのレパートリーに含むところから「ジンヤク踊り系の太鼓踊り」と呼ばれている。⁴⁾このジンヤク踊り系の太鼓踊りは、滋賀県の甲賀地方、三重県の伊賀地方、奈良県と京都府の一部がその分布圏になっている。

まず、土山町で太鼓踊りが奉納される場所や日から見てゆきたい。表1は土山町の太鼓踊りの伝承地、名称、奉納場所、奉納日などを示したものである。

表1 土山町の太鼓踊りの伝承地および名称等の一覧

伝承地	名 称	奉納場所	奉納日（現在）
山女原	花笠踊り	上林神社	4月15日
黒 川	太鼓踊り（花笠踊り、小踊り）	大宮神社	4月15日
黒 滝	太鼓踊り	惣王神社	7月11日
青 土	太鼓踊り	加茂神社	10月10日

2. 演奏の形態

土山町の太鼓踊りの演奏の形態は、棒振りと太鼓打ちによる踊り方と歌出しとほら貝による囃子方からなる。表2は4地区の太鼓踊りの演奏の形態を示したものである。これによれば、演奏の形態については、山女原・黒川・黒滝の3地区がよく似ているのに対し、青土には相違点が見られる。すなわち、太鼓打ちの数が多いことと側踊りが少ないことである。青土以外の3地区の側踊り（あるいはガワ）は、歌出しの音頭のあとを、同じ歌詞を繰り返して交互唱をしながら踊る。一方の青土では、歌出し4人がすべての歌を担当している。青土の歌出しの歌い方には2通りある。1つは、歌詞を「ハナトリ（先達）」と呼ばれる2人が先に歌い、「アツケ（附役）」と呼ばれる2人が同じ歌詞を繰り返す交互唱で、現地で「先達附役謡合」といわれているものであり、もう1つは、「唄返し」という歌詞の繰り返し部分も含めて4人で通して歌う歌い方である。さらに、青土の棒振りだけが、棒を扇でたたいて太鼓と同じリズムを奏しながら踊るのも相違点である。

表2 土山の太鼓踊り演奏形態一覧

伝承地	踊 り 方		囃 子 方		
	棒振り	太 鼓 打 ち	歌出し	ほら貝	他
山女原	2	2	2	2	側踊り多数
黒川（注ア）	2	2	4	2	ガワ多数
黒滝	2	2	2	2	ガワ多数
青土	2	6（大中小）	4	2	

注ア 黒川では、道行のときのみ篠笛と鉦を用いる。

3. 踊りの全曲目と現在の奉納曲目

土山町の太鼓踊りは、先にも述べたが、「大（小）順役・大（小）神学踊り」などの名前を持つ特徴的な曲を含むところから、ジンヤク踊り系の太鼓踊りに分類されているが、こうした太鼓踊りの歌にかかわらず、風流踊りに使われる踊り歌は、一般に、場所を移動する音楽も含めて数曲あるいは十数曲から構成され、奉納の際にはそれらがいくつかの場所に分けて奏される。表3は各地区で奉納された記録のある曲目を一覧にしたものであるが、このうち、1985あるいは86年に奉納された曲は+印で、また特別に演奏された曲は*印でそれぞれ示した。

表3で見られるように、もともと奉納した曲の比較的小さい地区では、青土のように全曲、また黒滝のようにほとんどの曲が現在も奉納されているが、山女原や黒川のようにレパートリーの多かった地区では、その一部だけが伝承され奉納されている。

表4-1 山女原の踊りの場の移動と各踊りの場での踊りの構成

〔本祭りでの踊りの構成による。()内は現在は奉納されていない(注ア)]
 (山女原では場所を移動するときに太鼓とほら貝が奏される)

踊りの場 曲目	踊り宿→	(蔵)→	上林神社境内→	地福寺→	(区長宅)
奉 納 曲 目		(御蔵踊り)	式入り 場ならし 神楽踊り 里の踊り 宝踊り 大順役 または小順役 津島踊り	式入り お寺踊り (山伏踊り) (鐘鑄踊り)	(御殿踊り) (御鷹踊り)

注ア 以下表4-2から表4-4まで同じ

表4-2 黒川の踊りの場の移動と各踊りの場での踊りの構成

(黒川では「道行」で場所を移動する)

踊りの場 曲目	踊り宿→	大宮神社→	(大日堂)→	(大総代宅)
奉 納 曲 目	上1 (御庭踊り) 上2 (鶯踊り) 馬場入り(呼び出し) 大黒踊り 下 大黒踊り	上 日野祭り 神楽踊り 下 馬場入り 神楽踊り 上下 大黒踊り (大順役) (小順役)		(上下 大黒踊り)

表4-3 黒滝の踊りの場の移動と各踊りの場での踊りの構成

(黒滝では「道引き」で場所を移動する)

踊りの場 曲目	踊り宿→	惣王神社境内→	瑞雲寺
奉 納 曲 目	日のばやし 大黒踊り	振り込み 日のばやし 神楽踊り 天王踊り(注ア) 住吉踊り(注ア) 山神踊り(注ア) 大順役 京嶋踊り 巻狩踊り (伊勢嶋踊り)	振り込み 日のばやし お寺踊り 仙松踊り

注ア この3曲は、以前はそれぞれの場所で奉納されたもの

表 4-4 青土の踊りの場の移動と各踊りの場での踊りの構成
(青土では「道引き」は移動で奏されるときにも、踊りに付属するものとしても奏される)

踊りの場 曲目	花宿→	加茂神社(出神)→	山の神(巡幸)→	加茂神社(還御)→	金毘羅の方向→	清涼寺→	区長宅→	花宿
奉 納 曲 目	道引き 萬場入り 前歌 世の中踊り	道引き 萬場入り 前歌 神事踊り	道引き 萬場入り 前歌 神事踊り 世の中踊り	道引き 萬場入り 前歌 世の中踊り 大神学踊り 家方踊り	道引き 萬場入り 前歌 御舟踊り	道引き 萬場入り 前歌 お寺踊り 大神学踊り 大黒踊り	道引き 萬場入り 前歌 御殿踊り	道引き 萬場入り 前歌 家方踊り

表 4-1 から表 4-4 によれば、地区によって多少の差はあるが、土山 4 地区の太鼓踊りの音楽的視点からみた踊りの構成は、次のようにまとめられる。

- ① 場所数に差はあるが、複数の踊りの場がある。
- ② 「道引き」あるいは「道行」などと呼ばれる、踊りの場を移動するための音楽がある。
- ③ 踊りの場への移動が済むと

山女原—「式入り」「場ならし」

黒川—「馬場入り」「日の祭り」

黒滝—「振り込み」「日のばやし」

青土—「萬場入り」「前歌」

などの踊りの場へ入る曲と踊りの場をほめ、そしてきよめる性格の曲が、まずはじめに奏される(青土の「前歌」の歌詞は、表 6-1 を参照)。

- ④ 踊りの構成には 2 種の構成がある。すなわち、一つの場で 1 曲だけ踊られる構成と 2 曲以上踊られる構成である。

次項では、④の 2 種の踊りの構成について、青土の太鼓踊りの例によって詳しく見て行きたい。

2. 音楽的視点からみた 2 種の踊りの構成

青土では、現在でも全曲が奉納演奏されており、踊りの構成に細かい工夫が見られる。まず、表 5 には、青土の踊りの構成について、各踊りの場で 1 曲だけ踊られるときの構成と、2 曲以上踊られるときの構成の、音楽的視点からみた骨組みを示し、表 6-1 と表 6-2 には、これら 2 種の構成の具体例を歌詞によって示した。

表 5 および表 6-1、表 6-2 のように整理することで、1 つの場で 1 曲だけ踊られる構成と 2 曲以上踊られる構成については、次のようにまとめられる。

- ① 「前歌」の性格がはっきりした。
- ② 構成の一覧表では省略した「踊り呼び出し歌」の使い方に 2 種あり、1 曲だけ踊られるときの「呼び出し歌」は表 6-1 の「世の中踊り」の前の例であり、また、2 曲以上が続けて踊られるときの「呼び出し歌」は、表 6-2 の「大神学踊り」と「家方踊り」の前の例であり、後者には「呼び出し歌の後半」のみを歌って連続して行くという工夫が見られる。
- ③ 「踊りの終わりを告げる」性格の部分にも 2 種あり、特別の「終わりを告げる歌」が歌われる例は表 6-2 の「家方踊り」の最後(~~~~~印)であり、終わりを告げる特別の歌が

歌われず、踊りの最後に終わりを意味する歌詞が歌われる例は表6-1の「世の中踊り」と表6-2の「大神学踊り」の最後（ 印）である。

以上を総合すると、土山町の太鼓踊りは、太鼓踊りの一般的特徴として説明される「芸態からいえば、地面を舞台とし、村の要所要所を移動して、各所で何種類かの踊りを踊る太鼓踊⁸⁾」に分類されるものであり、さらに「踊り場に練り込んでくる入端にはじまり、適宜な数曲の踊り、次の踊り場に移動するために退場する出端の曲で構成されている⁹⁾」と説明される踊りの構成の性格も満たしているように思われる。

表5 青土の2種の踊りの構成⁵⁾（踊りの進行する順序を縦に示している）

- | |
|---|
| <p>・ 1 曲だけ踊られる構成 （踊りの場の例）花宿、出神、金毘羅、区長宅</p> <p>前歌
踊り呼び出し歌
踊りの曲
踊りの終わりを告げる歌
（この特別の歌が歌われないものには、「踊りの曲」の最後に終わりを意味する歌詞がある）</p> <p>・ 2 曲以上踊られる構成 （踊りの場の例）山の神、還御、清涼寺</p> <p>前歌
踊り呼び出し歌
踊りの曲(1)
踊りの終わりを告げる歌
（この特別の歌が歌われないものには、「踊りの曲」の最後に終わりを意味する歌詞がある）
踊り呼び出し歌の後半
踊りの曲(2)
踊りの終わりを告げる歌
（この特別の歌が歌われないものには、「踊りの曲」の最後に終わりを意味する歌詞がある）
踊り呼び出し歌の後半
踊りの曲(3)
踊りの終わりを告げる歌
（この特別の歌が歌われないものには、「踊りの曲」の最後に終わりを意味する歌詞がある）</p> |
|---|

表 6-1 青土の 1 曲だけ踊られる構成の歌詞による具体例 (花宿)⁶⁾
 ()内は、交互唱で後から「アツケ」が歌う部分である。

前歌	ㄟ ヨーやらよい庭や みごとな庭や (ヨーやらよい庭や みごとな庭や) ヨーこのよなお庭で 踊りをすれば (ヨーこのよなお庭で 踊りをすれば) ヨー黄金の砂 (いさご) が ざごごこと (ヨー黄金の砂 (いさご) が ざごごこと)
踊り呼び出し歌	ㄟ みんなちようによ う ならみよれ 世の中 (〇〇〇) 踊りを しと踊り (ヨー世の中 (〇〇〇) 踊りを しと踊り)
踊りの曲 「世の中踊り」	ㄟ 今年の年は 世の中年で (ヨー今年の年は 世の中年で) ヨー今年の御田の 葉色のよさよ (ヨー今年の御田の 葉色のよさよ) ヨー畦よりかかる はいかかる (ヨー畦よりかかる はいかかる) [太鼓の拍子] ㄟ ヨーでけもでけたよ 今年の御田 (ヨーでけもでけたよ 今年の御田) ヨーからは七尺 穂は三尺よ (ヨーからは七尺 穂は三尺よ) ヨー縦につかえて 横つけに (ヨー縦につかえて 横つけに) [太鼓の拍子] ㄟ ヨー末ははるばる長けれど (ヨー末ははるばる長けれど) ヨー世の中踊りは <u>これまでよ</u> (ヨー世の中踊りは <u>これまでよ</u>) [終結の太鼓]

表6-2 青土の2曲以上踊られる構成の歌詞による具体例⁷⁾
(加茂神社還御)

前歌	ㄟ (略・表6-1と同じ)
踊り呼び出し歌	ㄟ (略・表6-1と同じ)
踊りの曲(1) 「世の中踊り」	ㄟ (略・表6-1と同じ)
終わりを意味する歌詞	(略・表6-1と同じ)
呼び出し歌の後半	ㄟ ヨー大神学(〇〇〇) 踊りを しと踊り (ヨー大神学(〇〇〇) 踊りを しと踊り)
踊りの曲(2) 「大神学踊り」	ㄟ ヨー踊りが参る 踊りが参る 一の門開け 二の門開け 三心得て 門を開け サーじんがくや 〔太鼓の拍子〕 ㄟ 参りきて これのお庭で 踊りをすれば 黄金小草が 足にからまる サーじんがくや 〔太鼓の拍子〕 ㄟ ヨー奥山の兎 奥山の兎 なによ見て跳ねる なによ見て跳ねる 十五夜の月を見て跳ねる 〔太鼓の拍子〕 ㄟ . . . (中略) ㄟ . . . 〔太鼓の拍子〕 ㄟ ヨー親里に 雨が降るやら 暗くなる
終わりを意味する歌詞	お暇申して 皆帰ろ じんや(「じんやくや」の短縮) 〔終結の太鼓の拍子〕
呼び出し歌の後半	ㄟ ヨー家方(〇〇〇) 踊りを しと踊り (ヨー家方(〇〇〇) 踊りを しと踊り)
踊りの曲(3) 「家方踊り」	ㄟ 親方様の 親方様の お祇園詣りの お下馬の天門 見てやれば ヨーお下馬の天門 見てやれば ヨー扇百本 太刀が百振り 白柄の長刀 はなかえろ サー白柄の長刀 はなかえろ 〔太鼓の拍子〕 ㄟ やらい城や みごとな城や 前なる川に 反り橋かけて 後ろ沼で やらみごと サー後ろは沼で やらみごと 〔太鼓の拍子〕
終わりを告げる歌	ㄟ <u>家方踊りはこれまで はこれまで</u>

3. 一連の踊り歌の機能

ところで、先の表4-4の青土の踊りの構成で見たように、「道引き・萬場入り・前歌・踊りの歌」などは連続して歌われ踊られることが多い。では、連続して歌われ踊られる場合に、前項で述べた、太鼓踊りは入端・踊り・出端で構成されているという一般的特徴は、踊りのどの部分に当てはまるのであろうか。

入端・出端の用語やその使用法は、芸術音楽と民俗音楽で、また、研究者によっても異なり、まことに複雑である。⁹⁾さらに、この複雑さとあわせて混乱しているのが、踊りの部分へのこれら(入端・出端)の用語の当てはめ方である。すなわち、芸能によっては、また研究者によっては、入端は踊りの場への入場の音楽であったり、あるいは踊りのはじめの部分であったり、使い方がまちまちなのである。その上に、風流踊り歌では、口承伝達による歌謡の特徴である、歌詞のフレーズの入れ替えや省略がしばしば行われるので、構成の分析はますます複雑となる。

次に、その一例を示そう。

表6-2の中で取り上げた青土の「大神学踊り」は、2曲目に踊られるところから、「呼び出し歌」は後半の「ヨー大神学踊りを しと踊り」だけが歌われ、「みないちようによ ならみよれ」が歌われないが、この「みないち・・・」の部分は、山女原・黒川・黒滝の3地区では「大順役」踊りのための歌い出しの歌詞であり、「大順役」踊りの一部分となっている。次に、3地区の「大順役」の歌い出し部分を示したが、山女原と黒川では、この歌詞で始まる部分は特に「道行」と呼ばれている。¹¹⁾

山女原： へ 皆いちりよに お並べやんで 大順役踊りを ひと踊り
参る参る踊りが参る 一の門開き 二の門開き 三国一の門開き¹²⁾

黒川(上)：へ みないちりょうによ お並びあんれ 順役踊りをひと踊り
参る参る踊りが参る 一の門開き 二の門開け 三こころえて
門を開け¹³⁾

黒川(下)：へ みないちようによ お並びあれ 順役踊りをひと踊り
踊りが参る踊りが参る 一の門開け 二の門開きよ 三こころえて
門を開きよ¹³⁾

黒滝： へ ミナイチリョニ オナラビアラバ 順役オドリヲーオドリ
マイルマイル オドリガマイル 一ノ門ヒラキ 二ノ門ヒラキ
ヨー三ココロエテ門ヲヒラカレタ¹⁴⁾

ところが、この「大ジンヤク」に関する研究では、歌い出しの「みないち・・・」の部分が省かれ、「参る参る(あるいは 踊りが参る)・・・」からが「大ジンヤク」の歌詞であり、入り端として扱われているのである。¹⁵⁾ただし、他地方には、「みないち・・・」の部分を歌わない地域もあるということであり、「みないち・・・」の歌詞が「大ジンヤク」で歌われることが原則であるとはいえないかも知れない。「ジンヤク」は、先にも述べたように特徴的な踊りであり、種々の観点からの考察が要求されるので、詳しい検討は次の機会にまわすとして、いずれにしても、この混乱を避けて研究を進めなければならない。

そこで、本研究では、構成の考察に、使い方のあいまいな入端・出端の用語を用いずに、踊りの構成部分を「機能」によって考えて行くことにした。¹⁷⁾

この「道引き・馬場入り・前歌・踊り歌」など連続して歌われ踊られる踊りを、表5および表

6-1, 表6-2で見た「踊り呼び出し歌」や「終わりを告げる歌」も加えて「一連の踊り歌」として考えると, この「一連の踊り歌」は, 踊りに入る前の「前段階」部分と, 中心となる踊りが行われる「後段階」部分とに分けられる。まず, 「前段階」では, 踊りの場への移動・入場・場のきよめが行われる。そして, 次の「後段階」である踊りは, 踊りを呼び出す導入部分・踊りが踊られる中心部分・踊りが終止される終結部分, の3つで構成されている。

表7は, これらの踊りの構成を6つの機能に分けて整理したものである。このように踊りの各部分を機能ごとに考えれば, 用語の使い方の混乱が避けられるであろう。

表7 踊りの構成と機能

前段階	1. 移動をするための機能を持つ音楽 2. 踊りの場へ入場するための機能を持つ音楽 3. 踊りの場をはめ, 淨めるための機能を持つ音楽
後段階	4. 導入部分 中心となる踊りを呼び出すための機能を持つ音楽 5. 中心部分 踊るための機能を持つ音楽 6. 終結部分 踊りを終止するための機能を持つ音楽

今後は, 本研究の「機能」の考え方を土台として, 太鼓踊りの「ヤマ」場である踊り歌の構成について, 後段階, すなわち, 「踊り呼び出し歌」に始まり, 「踊りの曲」, そして「踊りの終わりを告げる歌」で終わる, という一連の構成の中で, その特徴を明らかにしなければならない。そして, さらに, この6つの機能について, 音楽的要素から検討することが課題である。

お わ り に

総合的な芸能である風流踊りには, 歴史をはじめとして, 踊り, 詞章, 音楽などの総合的な観点からの研究の必要性がいわれてきたが, これまでの研究では, 踊りや音楽からの研究が少なかった。

本研究は, 風流踊り歌の音楽的特徴を明らかにするための第一段階として, 滋賀県土山町4地区の太鼓踊りを資料として, 踊りの構成について考察してきた。その結果, 土山町の太鼓踊りの場合, 踊りの構成部分が6つの機能に分けられることがはっきりした。次の機会には, この機能の考え方に基づいて, 各踊り歌の構成を検討するとともに, 各機能の音楽的特徴をも明らかにしたいと思う。

註

- 1) 青盛 透「風流踊の構造－囃子の位置をめぐって－」『民俗芸能研究 創刊号』民俗芸能学会, 1985, p. 60
- 2) 筆者は, 2冊の報告書で, 「太鼓踊りの音楽」を担当, 山女原と青土の踊り歌の採譜を行った。
- 3) 福岡, 大分, 山口などの一部には「楽」と呼ばれる歌謡を伴わない太鼓踊りがある。山路興造「全国風流踊り歌一覧」『民俗芸能43・44号合併号』民俗芸能の会, 1971, p. 49
- 4) 樋口 昭「風流踊歌の形式」『東京音楽大学紀要 第2集』東京音楽大学, 1977, p. 46-48。山路興造「全国風流踊り歌一覧」前掲書, p. 50-51。青盛 透「風流踊の構造」前掲書, p. 60。「ジンヤ

ク」には地区によって種々の漢字が当てられているが、樋口氏の片仮名による標記方法によった。なお、「ジンヤク」の名称に関しては、中村茂子「じんやく踊考」『芸能の科学 10 芸能論考 V』東京文化財研究所芸能部編、1979にも述べられている。

- 5) 梁島章子「太鼓踊りの採譜」『青土の太鼓踊り』土山町教育委員会、1988, p. 44で行った分析をさらに詳しくしたものである。
- 6) 同上書, p. 91-94の採譜から
- 7) 同上書, p. 69-72, 79-84, 93の採譜から
- 8) 山路興造「全国風流踊り歌一覧」前掲書, p. 50
- 9) 同上書, p. 50。「入端」「出端」の用語の用い方には、逆の用い方もある。樋口 昭「風流踊歌の形式」前掲書, p. 52。また、この「入端」「出端」の、風流踊りでの用い方に関する研究に、中村茂子「いは・では・ひきは」『芸能の科学11 芸能論考VI』東京国立文化財研究所編、1980がある。
- 10) 青土の「踊り呼び出し歌」は、他の3地区と異なっているが、このことについては、次の稿で詳しく述べる予定である。
- 11) 『土山の太鼓踊り』土山町教育委員会、1987, p. 93, p. 111
- 12) 梁島章子「土山町太鼓踊りの採譜」『土山の太鼓踊り』同上書, p. 154-155 の採譜から
- 13) 1986. 7. 10録音のテープから
- 14) 『土山の太鼓踊り』前掲書, p. 48
- 15) 樋口 昭「風流踊歌の形式」前掲書, p. 47-78。青盛 透「風流踊の構造」前掲書, p. 67。中村茂子「じんやく考」前掲書, p. 84。
- 16) 青盛 透「風流踊の構造」前掲書, p. 67。
- 17) 佐々木聖佳氏は「伊賀地方における風流踊り歌」『日本歌謡研究 第二十七号』日本歌謡学会、1988, p. 38-39で、伊賀地方の雨乞踊歌には儀礼的な踊と余興的な踊があることにふれ、そのうちの儀礼的な踊を役割や機能によって分類している。